



県では、人口減少下においても、将来に渡って住み慣れた地域に安心して住み続けられるよう、「宮崎ひなた生活圏づくり」の取組として、地域運営組織の形成等を支援しています。この通信では、地域で暮らす人々が中心となって地域課題の解決に取り組んでいる事例など、これからの地域活動のヒントとなるようなものを発信していきます。

高齢者向けの配食サービス

～渡川いこいの郷加工グループ(渡川マンマ)～

地域名：美郷町南郷渡川
活動地域：美郷町南郷渡川地区
団体名：渡川いこいの郷加工グループ(5名)
地域概況：人口342人、世帯数142世帯、高齢化率約48%
(平成27年国勢調査)
問い合わせ先：
美郷町企画情報課 0982-66-3603
渡川いこいの郷加工グループ 0982-59-8406



【取組の経緯等】

- メンバーの職歴は、ヘルパー、保育士、建設業事務、給食調理員、検査技師など様々。高齢化により引退することとなった漬物工場を引き継ぐため、地域の婦人部で仲の良かった5人が集まり、約2年ほどかけて地域の家々を回って梅干作りやこんにゃく作りなど、地域の食を学びながら、今後の活動を模索していた。
- その頃、民生委員として高齢者の見守りをしていたメンバーの1人が、1人暮らしの世帯で、自分で毎回料理して食事を食べる大変さ、孤独感を目の当たりにしたことで、見守りを兼ねた配食サービスはどうかと思いつき、メンバーに相談したところ、「やってみよう」ということになった。
- 弁当を買ってくれる人がいるか、好き嫌いやアレルギーがないかを一人一人聞いてまわり、準備に約1ヶ月間をかけ、平成25年10月から、高齢者を中心とするお宅に弁当の配食サービスを開始。
- 開始当初は、資金がなかったため、メンバーの畑で取れた野菜を持ち寄りしていた。また、冷蔵庫や炊飯器、調理器具は、地域の人が寄附してくれたものを活用した。
- 平成28年には、地域ビジネスに関する講座を受講したことをきっかけに、資金を稼ぐため、地元の物を使って混ぜご飯の素や味噌漬けなどの加工品にも挑戦し、イベントや道の駅などで販売している。

【活動の概要】

- 週2回(水・木)、1個350円の手作り弁当や、惣菜など、を用意し、昼食・夕食用の弁当として、メンバーが手分けして高齢者宅へ配達している。
- 配達先では、話し相手といった見守り活動も同時に行っている。
- 高齢者が配食に頼り過ぎて逆効果にならないように、ご飯が炊ける人は自分で炊いてもらったり、残食のないように量を調整したり、季節を感じてもらえるように四季折々のおかずを入れるなど、一人一人に寄り添った献立を工夫している。

【工夫点や特徴】

- 活動を続けるうちに、地区の若者が協力して弁当を頼んでくれたり、地区外から来るお客さんや、学校などが注文してくれるようになった。高齢者向けの配食だけでは赤字だが、これらの注文を受けることによって活動費をなんとかまかなうことができている。
- 活動開始から8年が経過し、メンバーも高齢となってきているが、仲間で集まって知恵を出し合いながら活動することや、人との出会いが活動を継続する力になっている。



【今後の展望・課題】

- 新たな加工品にも挑戦したい。無理せず、年に1品くらいずつ増やして行ければと考えている。
- 後継者の確保は課題。メンバーも高齢となっているため、10年を目途に今後の活動継続方法について検討しようと考えている。



今後も、不定期に県内の活動事例を紹介していきます。地域で暮らす人々が中心となった取組について情報がありましたら、ぜひ情報をお寄せください。

宮崎県総合政策部中山間・地域政策課
中山間・特定地域振興担当
電話:0985-26-7036
メール:chusankan-chiiki@pref.miyazaki.lg.jp